

第1章 平成22年度の研究について

忍久保 武士

1. 研究テーマ

自分づくりを支える生活プランの作成

2. テーマ設定の理由

幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境とかかわることによって作り出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。そのため幼稚園は、幼児らがこの時期にふさわしい生活をおくることができるように、園の実態に応じた教育課程、指導計画を作成し、保育を行わなければならない。教育課程は、幼稚園における教育期間の全体を見通したものであり、園の教育目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくのかを明らかにしたものである。さらに、指導計画とは、教育課程に基づき、幼児の発達や実情に合わせ、具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などといった指導の内容や方法を明らかにした計画である。

昨年、本園では教育課程を見直し、「学びをつなぐカリキュラム」を編成した。その中で、幼児の発達の道筋は大きく変わらないが、2年保育4歳児や5歳児での発達が緩やかになってきていることが明らかとなった。このような幼児の実態を踏まえると、従来の指導計画をもとにしながら保育をすることは、現在の幼児の発達を十分促すことができないと考え、本園の指導計画を見直し、再編成することにした。

今回の指導計画を「自分づくりを支える生活プラン」とした。昨年度の研究では、教育課程の再編成を目的としながらも、幼児らが協同して生活している姿、またはそのような姿に至るプロセスを明らかにすることも研究の目的として事例を収集し、考察をしてきた。この研究を通して、幼児らは友達とかかわって、いろいろなことを互いに学び合いながら新しい自分²になっていくことを再確認し、そのプロセスを「自分づくり」と捉えることにした。一方、この研究を通して協同して生活するようになるためには「自分づくり」を支えるための環境の構成や教師の援助が重要であり、それらがまだまだ不十分であることも見えてきた。そこで、今年度は幼児の「自分づくり」を支えるためにはどのような環境の構成をし、援助をしていくことがよいのか明らかにしていこうと考え、研究テーマ「自分づくりを支える生活プランの作成」を掲げることとした。

1) 金沢大学附属幼稚園 研究紀要第56集『学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて～協同して生活する姿を見つめて～』2010 p.96

2) 金沢大学附属幼稚園 研究紀要第45集『友達とかかわり合いながら創る生活』1999 p.3

表1 自分づくりのプロセス

(研究紀要 第44集)

	人とのかかわり	身近な環境とのかかわり	自分づくり
3 歳 ↓ 5 歳	友達の遊びを見る したい遊びをする 場やものを共有している がそれぞれが違うイメージ や思いで遊ぶ 友達と同じことをしよう として、イメージを共有し ようとする 好きな遊びをする 役割を決めて遊ぶ 気のあった友達と同じ遊 びを繰り返す 友達と相談して遊びのル ールをつくる 他の友達や集団にも目を 向けかかわっていく	身近な環境に気づく 身近な環境に触れ親しむ いろいろなものに十分かかわ り楽しむ ものの特性が分かり楽しむ 好きなことや得意なことばか りに取り組む 何にでも自分から働きかける ものの特性を生かし、工夫して 自分の生活に取り組む	興味関心のあるものとかかわ ろうとする かかわりを通して、人や身近 な環境を知覚する 人や身近な環境とのかかわり の中で自分の存在を認識する 自分と他者との違いに気づい たり、他者を受け入れようと したりする 社会的制約を受け入れなが ら、自己抑制をしようとする 幼稚園という社会環境を通し て、よりよく生きようとする

◇「新しい自分になる」とは

人やものとのかかわり方（ものの見方、人の見方、感じ方、考え方、表現の仕方など）が変化すること

3. 研究の目的

- ・本園の指導計画「自分づくりを支える生活プラン」を作成する

4. 研究の方法

- (1) 日々の保育を記録する。特に「わくわくワールド」(年長児宿泊体験)と「なかよしウィーク」(異年齢グループでの活動)については事例として書きとめ、事例検討を行う
- (2) 週案を見直し、指導計画を作成する
- (3) 作成した指導計画を見直す